

日本バプテスト神学校

2017年度 講義要項

245-0061 神奈川県横浜市戸塚区汲沢 1-24-9

TEL 045-866-3150 FAX 045-443-5933

E-mail jbts@jbu.or.jp

日本バプテスト神学校の教育理念

1. 「良い知らせを伝える」ために召された伝道者として、聖書を正しく学び、福音の真理を確かに身につける。
2. 伝道者としての信仰の成熟を、神に祈り、求め、品性の成長に努める。
神と人に仕える者としてみことばに聴き、他者を愛し、敬い、謙虚に仕えることができる信仰者を養成する。他者の存在を受け入れ、他者に仕えることを喜ぶ人間性の習得に努める。
3. よき牧会者となるために、よき羊飼いに倣い、心を開き、他者と多くのものを分かち合う心を養うことに努める。

2017年度 主題聖句

「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」(ネヘミヤ記8章10節より)

2017年度 教役者名簿 (あいうえお順・敬称略)

教役者名		担当科目名
小野 慈美	教授	説教演習
高橋 彰	学務主事・教授	神学概論 キリスト教学 キリスト教史
ニニミン	講師	英書講読
帆苺 猛	教授	新約ギリシャ語 論文
益 巖	校長代行	実践神学 II 牧会学
村椿 真理	講師	バプテスト史
森島 恵	講師	新約聖書学 I
山田 和人	講師	牧会カウンセリング
渡邊さゆり	教務主任	フィールドワーク ヘブライ語聖書学 I ヘブライ語聖書学 III 実践神学 I 基礎文献講読 原書講読

カリキュラム表・2017年度 開講科目一覧
 (担当者名のある科目が、今年度開講している科目です)

I. 基礎課程

信徒伝道者養成コース (聴講可能)

科目名	単位	必修	選択	担当者名	備考
ヘブライ語聖書学Ⅰ	4	○		渡邊	
新約聖書学Ⅰ	4	○		森島	
キリスト教史	4	○		高橋	
神学概論	4	○		高橋	
実践神学Ⅰ	4	○		渡邊	
神学校礼拝				渡邊	

II. 神学専門課程

教師養成コース

第一学年

科目名	単位	必修	選択	担当教員名	備考
ヘブライ語聖書学Ⅰ	4	○		渡邊	
新約聖書学Ⅰ	4	○		森島	
キリスト教史	4	○		高橋	
神学概論	4	○		高橋	
実践神学Ⅰ	4	○		渡邊	
実践神学Ⅱ	4	○		益	
選択科目	8		○		
フィールドワーク	4	○		渡邊	

第二学年

科目名	単位	必修	選択	担当教員名	先修科目
ヘブライ語聖書学Ⅱ	4	○			ヘブライ語聖書学Ⅰ
新約聖書学Ⅱ	4	○			新約聖書学Ⅰ
教義学	4	○			神学概論
バプテスト史	4	○		村椿	キリスト教史
説教学	4	○			
キリスト教と現代	4	○			
選択科目	4		○		
フィールドワークⅡ	4	○		渡邊	

第三学年

科目名	単位	必修	選択	担当教員名	先修科目
ヘブライ語聖書学 III	4	○		渡邊	ヘブライ語聖書学 II
新約聖書学 III	4	○			新約聖書学 II
牧会学	4	○		益	
説教演習	4	○		小野	説教学
牧会カウンセリング (半期)	2	○		山田	
選択科目	2		○		
論文	4	○		帆苺	
フィールドワーク III	4	○		渡邊	

選択科目

科目名	単位	担当教員名	先修科目
教会史特講	4		キリスト教史
教義学特講	4		教義学
原典講読 (旧約)	4		ヘブライ語
原典講読 (新約)	4		新約ギリシア語
日本キリスト教史 (前期)	2		
教会音楽	2		
特別講座 I	2		
特別講座 II	2		
新約ギリシャ語	4	帆苺	
ヘブライ語	4		
原書講読 I	4	ニニミン・渡邊	英書講読
原書講読 II	4		
キリスト教教育学	2		
基礎文献講読	4	渡邊	
礼拝学	2		

バプテストコース 必修科目

(ただし、教師養成コースの必修科目で未修のものがあれば、履修を求める。学生のこれまでの神学教育機関での履修の有無により相談して決定する科目がある)

科目名	単位	担当教員	先修科目
バプテスト史	4	村椿	キリスト教史
実践神学 I	4	渡邊	
実践神学 II	4	益	
牧会学	4	益	
説教演習	4	小野	説教学
論文	4	帆苺	
フィールドワーク	4	渡邊	

2017年度 時間割

		火	水	木	金		
9:00- 9:30		聖書と祈り 集会室					
教室番号		1	2	1	1	2	1
1 限目 9:40- 11:00	春	フィールドワーク (渡邊) (神学専門課程全員) 9:40-10:40		牧会学 (益) (3・B)			基礎文献講読 (渡邊) (選択)
	秋						
2 限目 11:10- 12:30	春	神学校礼拝 (全学生) (11:00-12:00)		牧会カウンセ リング (山田) (3)			実践神学 I (渡邊) (1・S・聴)
	秋						
ランチタイム・学内清掃							
3 限目 13:30- 14:50	春	論文指導 (帆苺) (3・B)	キリスト教史 (高橋) (1・S・聴)	実践神学 II (宣教学) (益) (1・2・3・ B)	原書講読 (英語) (渡邊) (選択)		
	秋				原書講読 (英語) (ニニミン) (選択)		
4 限目 15:00- 16:20	春	新約 ギリシャ語 (帆苺) (選・聴)	ヘブライ語 聖書学 I (渡邊) (1・S・聴)	学生会	キリスト教学 (高橋) (1・S・聴)	説教演習 (小野) (2・3)	
	秋						
5 限目 16:30- 17:50	春	バプテスト史 (村椿) (2・B・聴講)				神学概論 (高橋) (1・S・ 聴)	ヘブライ語 聖書学 III (渡邊) (3)
	秋						
ブレイク							
6 限目 19:00- 20:20	春	新約聖書学 I (森島) (1・S・聴講)					
	秋						

科目名	担当者名	単位数	時間	神学専門課程
フィールドワーク	渡邊さゆり	4	火・1	

【講義概要】

< 通年実習 > (全受講者)

受講する神学専門課程の学生は、日本バプテスト同盟関東部会の教会・伝道所の協力を得て、一年を通じて定められた一つの教会で実習します。受け入れ教会に感謝し、誠実に取り組んでください。実習では、教会教師から具体的な宣教牧会についての指導を受けます。実習教会での信徒の交わりを深め、また宣教の担い手として、奉仕をします。週ごとに通年教会実習のレポートを講義時に提出し、講義内では他の学生の実習レポートをよく聴き、互いに宣教的な課題を討議します。

< 集中実習 > (在学期間中一回)

日本バプテスト同盟に加盟する教会・伝道所の協力で、現役の教会教師の指導のもと連続する三回以上の主日を含む期間で集中的な実習をし、牧会への備えをします。日常的な教会教師の宣教牧会を共に学ぶことにより、より具体的な牧者の働きを知り、実践的な訓練の場として集中実習を位置付けています。在学期間中に必ず一回この実習を行うことにします。学生個々人のニーズにあわせ場所や時期を調整します。この間に、自らの献身、宣教について問い直され、ビジョンが与えられることを祈ります。集中実習も実習レポートを作成します。

< 研修旅行 > (全受講者)

日本バプテスト同盟の東北、関西、内海部会の教会・伝道所を研修のために訪問し、各地区の教会・伝道所の働きを学び、信徒との交わりを持ち、教師の働きから学びます。またそれぞれの地域にある宗教施設や、協力団体の歴史、働きを知ります。

本講義では、上記実習教会の教師と連携をとり、学生の実習を維持、指導し、伝道者となる上での課題を分かち合います。「献身」とは何かを自問し、また召命について深く考えることができるように、工夫していきたいと思います。共に働く仲間の献身についての意見をよく聴き、具体的な教会活動の中で起こる問題や、実習中に直面したことがらを慎重に考えます。また、教会が担うべき社会的な課題について調査、発表を行い伝道者として働くための備えをします。個々人の宣教の関心に即して、外部研修を受けた場合、その研修内容を分かち合いレポートを提出します。また本校が連携している日本キリスト教婦人矯風会、NCC 教育部などによる研修に出席し、研修レポートをします。地域、また内外のキリスト教グループとの関係を知り、牧会的訓練となるよう信頼性の中で講義をつくりあげていきたいと考えています。

< 聖書と祈り >

講義期間中に行われる聖書と祈りの時間に参加し、司会進行の奉仕を行います。また、毎日の聖書と祈りの日々から神学研究、そしてキリストへの信徒への志をより堅くしていきたいと考えています。

< 神学校礼拝 >

学生は、神学校礼拝に参列し、奉仕を担当します。学期ごとに、礼拝奉仕についての振り返りを行い、牧会的に信徒の働きを導く力を養います。具体的には、司式、「説教」、奏楽、週報作成などの奉仕の中から、今日的な宣教の課題を見出し、相互評価とレポートを行います。特に、礼拝奉仕については、キリスト教暦に基づいた礼拝をもつように工夫していくこと、言葉や振舞などにも互いに声をかけあいながら現代においてどのような礼拝をなすのかを問うていければと考えています。愛餐会などに協力し、共同体形成の実際的な働きについて考えます。

< 財産管理の実習 >

受講者は、今後教会堂、および教会財産の管理者としても働きます。具体的には、神学校校舎の維持管理に具体的に参与して学びます。清掃、修理、修繕、また学生会の会計を担当する中で、教会事務についても実践的に学びます。

【講義計画】

- ① 通年教会実習の実習記録を作成、毎講義中に提出をします。実習で学んだこと、考えさせられていることをよくまとめ、発題し、コメントを聞き、次週への取り組みに反映させフィールドワークの基本的な作業を身に付けていきます。
- ②集中実習の実習記録を作成し、実習後提出します。連続して奉仕した教会の諸活動から学ばされたことなどを、神学的に考察し、自らの言動を振り返ります。研修旅行に参加し、地区にある教会の宣教の歴史を学び、信徒の交わりを深めます。
- ③ 協力団体、キリスト教学校での奉仕や、研修に参加します。今年度は、キリスト教の多様な宗派、教派の礼拝に参列する機会を設け、バプテスト教会の宣教の特徴について話し合う時間を大切にしてい予定です。
- ④同盟諸規定集を通じて、宗教法人格をもつ宗教団体としての社会的責任、また信仰共同体としての教会形成など具体的な働きについて学びます。これからの日本バプテスト同盟に加盟する教会、協力団体の連帯についてもよく話し合う時間を持ちたいと思います。
- ⑤学生主催による講演会の実施を予定しています。お互いの発題をよく聞き、事前学習を十分に行い、講師との交渉、また宣伝活動にはどのような工夫が必要なのかなどを話し合いながら決めていきます。

【評価方法】

通年教会実習出席・講義出席＝30％ 週ごとの通年教会実習レポート＝30％

講義内の発表＝20％ 半期ごとのレポート＝20％ ただし、教会実習先の教師からのコメントを重視し、適宜実習内容や方法を変更する場合があります。実習レポートの不足は上記の配分を超えて減点の対象とすることがある。実習への遅刻、早退、欠席の過多（規定期間の四分の一以上）は、単位を認定することはできません。

【テキスト】

学生は必ず自分用のJB誌を講読すること（聖書と祈りの時間に使用します）。

宗教学者 日本バプテスト同盟『信徒の手引き』改訂八版 日本バプテスト同盟 2006年

宗教学者 日本バプテスト同盟 同盟規程集

【参考書】

講義の中で適宜紹介する。

【備考】

共に学ぶ仲間が他の教会で学んだことのレポートをよく聴き、尊重し、やり取りをすること自体も、実践的な訓練ととらえています。互いに相手の気持ちを考え、共感的態度で関与しながら、協働性が育めるように、積極的に誠実な態度で臨んでほしいと願っています。

聖書と祈りの時間への遅刻、実習先への遅刻、早退、欠席のないように十分に備えて取り組んでほしいと願っています。

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴																												
キリスト教学	高橋 彰	4																														
【講義概要】																																
<p>キリスト教信仰と教会の活動についての基本的な内容を学び、理解を深めましょう。聖書、礼拝、さんび、祈り、教会と祝祭暦、宣教、教育、奉仕、平和など、キリスト教会は2000年の歴史においてさまざまな文化や思想、活動を生み出し、伝承して来ています。今日教会につながるわたしたちの信仰活動も、そうした豊かな背景から影響を受けています。「キリスト教」を多角的に知り、わたしたちの信仰のあり方や教会生活において、何を大事にしてゆくかを共に考えていきましょう。また、自分の信じる信仰内容や教会の活動について他の人びとに紹介し、説明できるようになることを意識して、語り伝える力も養ってゆきましょう。</p>																																
【講義計画】																																
<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション、キリスト教の今</td> <td>15. 後期ガイダンスと夏期課題取り組み報告発表</td> </tr> <tr> <td>2. 聖書の基礎知識</td> <td>16. キリスト教史の主要な人びとと思想</td> </tr> <tr> <td>3. 聖書の主な登場人物、聖句</td> <td>17. 宗教改革</td> </tr> <tr> <td>4. イエス・キリストの生涯</td> <td>18. キリスト教の諸派</td> </tr> <tr> <td>5. イエス・キリストの教え</td> <td>19. パレスチナ問題</td> </tr> <tr> <td>6. パウロの生涯と伝道、教え</td> <td>20. キリスト教と諸宗教</td> </tr> <tr> <td>7. 黙示録とわたしたちの信仰</td> <td>21. 宗教とカルト</td> </tr> <tr> <td>8. 教会とは何か</td> <td>22. 日本のキリスト教①キリシタン～明治期</td> </tr> <tr> <td>9. キリスト教の礼拝</td> <td>23. 宣教師（世界、日本）</td> </tr> <tr> <td>10. キリスト教の暦</td> <td>24. 日本のキリスト教②戦争と教会、そして今</td> </tr> <tr> <td>11. キリスト教の祈り</td> <td>25. キリスト教と文学</td> </tr> <tr> <td>12. キリスト教のスピリチュアリティ</td> <td>26. キリスト教と音楽、美術</td> </tr> <tr> <td>13. ディアコニア</td> <td>27. キリスト教と社会、平和、人権、活動</td> </tr> <tr> <td>14. 前期まとめ</td> <td>28. キング牧師とボンヘッファー</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション、キリスト教の今	15. 後期ガイダンスと夏期課題取り組み報告発表	2. 聖書の基礎知識	16. キリスト教史の主要な人びとと思想	3. 聖書の主な登場人物、聖句	17. 宗教改革	4. イエス・キリストの生涯	18. キリスト教の諸派	5. イエス・キリストの教え	19. パレスチナ問題	6. パウロの生涯と伝道、教え	20. キリスト教と諸宗教	7. 黙示録とわたしたちの信仰	21. 宗教とカルト	8. 教会とは何か	22. 日本のキリスト教①キリシタン～明治期	9. キリスト教の礼拝	23. 宣教師（世界、日本）	10. キリスト教の暦	24. 日本のキリスト教②戦争と教会、そして今	11. キリスト教の祈り	25. キリスト教と文学	12. キリスト教のスピリチュアリティ	26. キリスト教と音楽、美術	13. ディアコニア	27. キリスト教と社会、平和、人権、活動	14. 前期まとめ	28. キング牧師とボンヘッファー
1. オリエンテーション、キリスト教の今	15. 後期ガイダンスと夏期課題取り組み報告発表																															
2. 聖書の基礎知識	16. キリスト教史の主要な人びとと思想																															
3. 聖書の主な登場人物、聖句	17. 宗教改革																															
4. イエス・キリストの生涯	18. キリスト教の諸派																															
5. イエス・キリストの教え	19. パレスチナ問題																															
6. パウロの生涯と伝道、教え	20. キリスト教と諸宗教																															
7. 黙示録とわたしたちの信仰	21. 宗教とカルト																															
8. 教会とは何か	22. 日本のキリスト教①キリシタン～明治期																															
9. キリスト教の礼拝	23. 宣教師（世界、日本）																															
10. キリスト教の暦	24. 日本のキリスト教②戦争と教会、そして今																															
11. キリスト教の祈り	25. キリスト教と文学																															
12. キリスト教のスピリチュアリティ	26. キリスト教と音楽、美術																															
13. ディアコニア	27. キリスト教と社会、平和、人権、活動																															
14. 前期まとめ	28. キング牧師とボンヘッファー																															
【評価方法】																																
<p>毎回、小発表課題を出すので、準備して講義に参加してください。取り組みを評価します。授業での積極的な質問や発言を評価します。</p> <p>前期後期に試験を行います。夏休みレポート課題、後期レポート課題を出します。</p>																																
【テキスト】																																
<p>富田正樹著「キリスト教資料集」日本基督教団出版局、2015年 日本バプテスト同盟「信徒の手引き」改訂10版、2012年</p>																																
【参考書】																																
<p>授業の中で指示します。</p>																																
【備考】																																

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴
神学概論	高橋 彰	4		
【講義概要】				
<p>「神学する」とは何かという問いを持ち、基礎的な神学的主題を概観しながら身につけていきます。神学の領域、議論の方法、基本的知識を習得するため、指定のテキストに取り組み、キリスト教神学の諸主題について丁寧に扱い、なされてきた議論へ対論を立て、問いを深め、これから学ぶ神学の幅広い世界の地図を頭で整理して理解するための基礎作業をします。神学的用語を用いて議論する力と、文章作成力を養うことを目標とします。牧会者や信徒伝道者として教会形成や信徒の教育のリーダーシップを担ってゆくための神学の基礎を築くための大切な学びです。</p> <p>前期は「神学とは何か」の問いからはじめ、神学の区分と内容、その歴史的展開を概観します。神学とはどのような学問であり、どのような領域があるのかを解説します。そしてまず、近代以降の神学がどのように展開されたのかを検証し、神学が教会そして社会とどう影響し合い、展開されてきたのかを学びます。その上で「神、人間、世界」という領域を組織神学的に考察します。</p> <p>後期はバプテスト教会という場からの神学と教会形成についてテキストを用いて学びます。発表と討議を通してそれぞれが自らの信仰と教会生活に対する神学的考察を行うと共に、用語を使用して議論する経験を積み重ねます。</p>				
【講義計画】				
前期	後期			
1. オリエンテーション「神学とは何か」	15. 聖霊と三位一体			
2. 神学と教会	16. 教会			
3. 神学諸科について	17. 天国			
4. 聖書	18. バプテストの信仰告白			
5. 教会の伝統と信条	19. 新生会綱領宣言・日本バプテスト信仰宣言			
6. 宗教改革と信仰告白	20. 『バプテストの教会形成』 I バプテストの本質と起源をたずねて			
7. 信仰と理性	21. II 新約聖書の教会観			
8. 19世紀のプロテスタント神学	22. III 普遍教会と個別教会			
9. 20世紀のプロテスタント神学	23. IV 個別教会			
10. 信仰とは	24. V 教会員—その資格と責任			
11. 神	25. VI バプテスト教会の牧師			
12. 創造	26. VII バプテストと聖餐			
13. イエス・キリスト	27. VIII エキュメニカルな諸関係について			
14. 救い	28. まとめ			
【評価方法】				
<p>毎回の講義で学んだことを整理し、レスポンスシートを提出していただきます。後期は発表の担当の準備に誠実に取り組み、積極的に発言をしてください。</p> <p>前期、後期試験を行います。夏休みにレポート課題を出します。また通年かけて神学の基本用語の要約をし、後期レポート課題に代わるものとして提出していただきます。</p>				
【テキスト】				
<p>日本バプテスト同盟「信徒の手引き」改訂10版、2012年 N・H・メアリング、W・S・ハドソン著、大竹庸悦、藤原三千男訳「バプテスト教会の形成」新教出版社、2011年 J.ゴンサレス著、鈴木浩訳「キリスト教神学基礎用語集」教文館、2010年</p>				
【参考書】				
必要に応じて講義で指示します。				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	
ヘブライ語聖書学 I (旧約 I)	渡邊さゆり	4	火・4	1・2・3・S・B・聴

【講義概要】

ヘブライ語聖書についての総合的な解説を行います。一年の講義を通して、受講者と教員が、ヘブライ語聖書をよく読み、考え、基本的な聖書学の知識を共に身につけていきたいと思えます。自分の思いこみや、これまで刷り込まれてきた考えかたを点検し、クラスのメンバーの意見を聴き、開かれた心を持つことに取り組みます。聖書学の基礎となる①書かれたことがらの内容をしっかりととらえ、②自分の考えをまとめ、③相手にわかりやすく説明することに取り組みます。聖書学の手法の入り口に立てるように工夫した講義を行いたいと思えます。ヘブライ語聖書は、分量の多い書物ですが、臆せず、意見交換をしながら進めていきましょう。とにかく、聖書をよく読むことに専念するクラスです。そしてお互いを尊重して意見を交わしながら進めていきましょう。そして、キリスト教会で、ヘブライ語聖書を読むということについて、深く考えていければと思えます。一年間の学びを通して、来年度は、原典を読みたいという思いが起こされるような新しい学びとなればと思えます。

この講義は、聖書学の初歩的な講義で、今後の積義、神学へとつながる入門講座です。古代ユダヤ的思想文化に触れ、ヘブライ語聖書を読む楽しさを十分に味わえるように今年度も工夫していきます。毎回の講義の振り返りを各受講者が作成し、提出します。「聖書」とは何かを真摯に問います。受講者は、まずはヘブライ語聖書時代史に興味を持ち、歴史的に重要な出来事をしっかりと頭に入れ、地理や文化について慣れ親しんでいくことに重点を置き、聖書を読み進めてくださればと思えます。本講義は、現代のキリスト教会における性差別や、暴力の問題、また戦争、平和についての問題からも考え、広い視野と深い思索をもって取り組むことが特徴です。生活経験から聖書を読む準備を始めます。特にフェミニスト視点による聖書解釈を紹介しながら、新しい視座にも開かれた読みへと進めていきます。さあ、始めましょう。

【講義計画】

前期

- 1) オリエンテーション 旧約聖書→ヘブライ語聖書の理解、書かれた神のことば
- 2) 創世記1－10章(人間、世界について考えよう)
- 3) 創世記(族長物語から)古代パレスティナ地域の文化 契約と祝福
- 4) 出エジプト モーセ誕生物語と召命
- 5) 出エジプト～ヨシュアへ 荒野時代と定住
- 6) 士師時代 聖戦、暴力とキリスト教
- 7) サムエル記から サムエルとサウル
- 8) ダビデとソロモン 王国時代への変遷から考えること
- 9) 分裂王国時代 北イスラエル 預言者1 エリヤ、エリシャ
- 10) 北イスラエルの滅亡 預言者2 アモス書を読もう
- 11) 預言者3 ホセア書を読もう(サマリアについて)
- 12) 南ユダI 預言者4 イザヤ書1－39章を読もう(アッシリアの脅威)
- 13) 南ユダII 申命記改革 預言者5 ヨエル書、オバデヤ書、ミカ書を読もう
- 14) 預言者6 エレミヤ書、ナホム書、ゼファニア書を読もう

後期

- 1) バビロン捕囚時代 預言者5 エゼキエル書を読もう
- 2) 申命記的歴史観 ヘブライ語聖書文書と申命記～資料仮説～
- 3) 第二イザヤについて

<p>4) ペルシャ時代 預言者6 ハガイ書、ゼカリヤ書 マラキ書を読もう</p> <p>5) エズラ記、ネヘミヤ記から</p> <p>6) 詩編 詩編の研究の歴史 詩歌をよみ味わう 礼拝を考える</p> <p>7) ヨブ記を熟読してみよう</p> <p>8) 箴言、コヘレトの言葉、雅歌を読み解く</p> <p>9) 哀歌をうたう人びと</p> <p>10) ダニエル書を読もう 黙示文学について</p> <p>11) ヨナ書、ルツ記を読もう</p> <p>12) エステル記を読もう</p> <p>13) ヘレニズム時代～ローマ時代へ ユディト書を読もう</p> <p>14) まとめ</p> <p>上記の予定は、受講者の状況によって変更することがあります。この一年間でしっかりとヘブライ語聖書に親しみます。「テキスト」を読む力を養い、釈義、神学的思考を深めるための基礎を学びます。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>講義ごとのレポート40%、学期ごとのレポート・テスト40%、出席、講義中の発表20%</p>
<p>【テキスト】</p> <p>『聖書 新共同訳—旧約聖書続編付き』 日本聖書協会 1987, 1988年</p> <p>樋口進 『よくわかる 旧約聖書の歴史』日本キリスト教団出版局 2001年</p>
<p>【参考書】</p> <p>越川弘英 『旧約聖書の学び』 キリスト新聞社 2014年</p> <p>日本聖書協会 編 『はじめて読む人のための 聖書ガイド』2011年</p> <p>そのほか、講義中に適宜紹介します。</p>
<p>【備考】 すでに受講した方の再聴講も可能です。</p>

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴
新約聖書学 I	森島 恵	4	火・6	
【講義概要】				
新約聖書各書の著者、著作年代、著作場所、時代背景、神学的特色などについて学ぶ。				
【前期講義計画】				
I. 新約聖書概論				
II. 各書概説				
1) 福音書（共観福音書、ヨハネによる福音書）				
2) 使徒言行録				
3) パウロの手紙				
テサロニケの信徒への手紙一、ガラテヤの信徒への手紙、フィリピの信徒への手紙 フィレモンへの手紙、コリントの信徒への手紙一、コリントの信徒への手紙二 ローマの信徒への手紙				
【後期講義計画】				
4) パウロの名による手紙				
テサロニケの信徒への手紙二、コロサイの信徒への手紙、エフェソの信徒への手紙、 牧会書簡：テモテへの手紙一、二、 テトスへの手紙				
5) ヘブライ人への手紙				
6) 共同の手紙				
ヤコブの手紙、ペトロの手紙一、ペトロの手紙二、ヨハネの手紙一、ヨハネの手紙二、 ヨハネの手紙三、ユダの手紙				
7) ヨハネの黙示録				
【評価方法】 毎週のレポート提出、レポート発表、前期レポート提出、後期レポート提出				
【テキスト】 『新版 総説 新約聖書』日本キリスト教団出版局				
【参考書】				
『新共同訳聖書辞典』新教出版社				
『新共同訳 聖書事典』日本キリスト教団出版局				
『旧約新約 聖書大事典』教文館				
『新約聖書正典の成立』日本基督教団出版局				
『聖書ノート 改訂版』燦葉出版社				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴
キリスト教史	高橋 彰	4	火・3	
【講義概要】				
<p>2000年に及ぶキリスト教の歴史は多様な展開をしています。この講義では教会の歴史に登場する人物や出来事の基本的な知識を身につけることだけでなく、フスト・ゴンサレスの『キリスト教史』をテキストにしてキリスト教勝利主義的価値観からの脱却とマイノリティ性に注目を置く視点から、教会の活動や宣教、神学思想を批判的に読み解いていきます。それぞれの時代や場所においてどのような信仰的関心や弁証的課題があったのかを、資料や著作にも広くあたって確認してきます。またキリスト教の影響が思想、文化、社会、政治、芸術などに与えた影響にも注目します。</p> <p>歴史に対する多角的な視点を養い、キリスト教の歴史を批判的に検証しつつ、主体的にキリスト教の歴史を担う者の一人として自覚し、現代的な課題に向き合い、創造的な信仰生活を送れるようになることを目的とします。</p>				
【講義計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション キリスト教史を学ぶために 2. エルサレムからローマへ (テキスト上巻 23～44ページ) 3. 迫害と弁明 (テキスト上巻 45～72ページ) 4. 「正当」と「異端」 (テキスト上巻 73～98ページ) 5. 迫害からローマ国教へ (テキスト上巻 99～124ページ) 6. 帝国の教会と反動としての運動 (テキスト上巻 127～186ページ) 7. 教父たちと古代教会の神学論争 (テキスト上巻 187～235ページ) 8. 古代から中世へ 新しい秩序 (テキスト上巻 247～296ページ) 9. 中世の教会とイスラムとの戦争 (テキスト上巻 297～366ページ) 10. 宗教改革の萌芽 (テキスト上巻 367～401ページ) 11. 植民地主義キリスト教の始まり (テキスト上巻 405～439ページ) 12. マルティン・ルターと宗教改革 (テキスト下巻 15～52ページ) 13. ツヴィングリ、再洗礼派、 (テキスト下巻 53～64ページ) 14. 前期まとめ 15. カルヴァン、イングランドの宗教改革 (テキスト下巻 75～114ページ) 16. オランダ、フランス、カトリック改革 (テキスト下巻 115～130ページ) 17. 三十年戦争とピューリタン革命 (テキスト下巻 137～166ページ) 18. 正統主義の時代 (テキスト下巻 167～186ページ) 19. 信仰と理性 (テキスト下巻 187～216ページ) 20. アメリカ (テキスト下巻 217～256ページ) 21. ヨーロッパ、ラテンアメリカ (テキスト下巻 257～272ページ) 22. プロテスタント、カトリックの神学 (テキスト下巻 273～282ページ) 23. 大宣教時代 (テキスト下巻 283～308ページ) 24. 二度の大戦と教会 (テキスト下巻 313～346ページ) 25. 合衆国のプロテスタント教会 (テキスト下巻 351～364ページ) 26. 地の果てから (テキスト下巻 365～373ページ) 27. 21世紀のキリスト教と現代的課題 28. まとめ 				
【評価方法】 講義を要約し自分なりにまとめたレポートを次の授業の際に提出してもらいます。前後期に試験を行います。夏休みにレポート課題を出します。				
【テキスト】 フスト・ゴンサレス著、石田学訳『キリスト教史』上巻、2002年、新教出版社 フスト・ゴンサレス著、石田学、岩橋常久訳『キリスト教史』下巻、2003年、新教出版社				
【参考書】 授業で毎回指示します。				
【備考】 講義前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。資料を保管できるファイルを用意すること。				

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴
実践神学Ⅰ	渡邊さゆり	4	金・2	

【講義概要】

「宣教」は、どのように行われ、どこに向かうのか、がこの講義のテーマです。受講者が実践神学的諸分野の基本的な知識、用語や歴史、そして課題を知り、討議できることが目標です。まずは、「教会」とは何かを、受講者と共に話し合いながら考えていきます。世界からの声に耳を傾け、現代的課題とキリスト教信仰についての問いを立てていきたいと思ひます。そのうえで、「神の宣教」、「宣教のパラダイムシフト」について問題意識をもちながら学びます。また、キリスト教信仰の諸表層、祈り、礼拝、賛美、「礼典」、職制についての課題にも取り組みます。この講義は実践神学の初歩的な講義です。しかし、信徒コース、教師コース一年目の方が、具体的な信仰生活の中で出会うことがらによく目を留め、問いを立てることを大切にしたいと思ひています。前半は、日本バプテスト同盟の諸教会、諸規定からび、各教会の課題や現在取り組んでいることから学びます。その後、特に、こどもの教会、教会学校の働きに焦点をしばり、教会における教育、そしてバプテスト教会の「こども」をテーマに後半は話を進めていく予定です。リサーチを行い、報告、そして神学的な議論を行うことを繰り返していきたいと思ひます。学生と教員が等しく学ぶものとしての姿勢をもち、対等に話し合いながら進める予定です。後半は具体的にこどもの教会でのメッセージや、教育教材の工夫などについても取り組んでいきたいと思ひます。

【講義計画】

前期

- 1) オリエンテーション 素朴な問いや戸惑いから 実践神学をはじめよう～各自のテーマを求めて～
- 2) 近代以降～歴史経緯の中で変遷する教会
- 3) エキュメニカル運動
- 4) 行動の学 実践の美学
- 5) 信じること 生きること
- 6) ひとりであること、共に生きるということ
- 7) キリスト者の生活
- 8) 日本バプテスト同盟の戦争責任、悔い改めから考える (以上はテキスト1から)
- 9) バプテスト教会の特徴について
- 10) 職制について
- 11) わたしたちの教会の礼拝から考える
- 12) 教会の中にある差別
- 13) 病と死 ターミナルケア
- 14) 身近な宣教の取り組みと課題 伝道と宣教について

後期

- 1) 聖書から「こども」を考える1 リサーチについての説明とテーマの設定
- 2) 聖書から「こども」を考える2
- 3) キリスト教学校におけるキリスト教教育1
- 4) キリスト教学校におけるキリスト教教育2
- 5) 「教育」をめぐる課題 貧困、いじめ、学力偏重型 とキリスト教
- 6) 多様なこどもの育ちと伴走型教育について
- 7) こどもの教会と教会学校
- 8) 乳幼児の発達と養育者の状況
- 9) 10代の子どもたちの気づきと信仰

10) こどもの教会、教会学校リサーチ発表

11) 実践

12) 実践

13) 実践

14) まとめ

【評価方法】

講義でのレスポンスシートの提出 30% 発表 30% レポート 40%

【テキスト】

1. 森野善右衛門『教会の告白と実践 実践神学の諸問題』新教出版社 1999年

【参考書】

神田健次 『総説 実践神学』日本キリスト教団出版局 1989年

関田寛雄 『「断片」の神学 実践神学の諸問題』日本キリスト教団出版局2005年

そのほかは、講義の中で紹介します

【備考】

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴
バプテスト史 (History of the Baptists)	村椿 真理	4	火・5	

【講義概要】 17世紀英国分離会衆派教会の中から誕生したバプテスト教会の今日に至る迄の歴史と信仰思想、その伝統について学ぶ。英国、ヨーロッパ、米国、日本と概観する。それを通し、バプテスト教会の教会理念、そこにあらわれた独自のバプテスト主義を学び、バプテスト信仰の本質、及びバプテスト教会形成の今日的課題を理解していく。

【講義計画】

前 期

1、ガイダンス 総論

—バプテストの起源と発展 歴史を学ぶ意義 シラバス概要説明

2、初期非国教派、ピューリタンの一員としてのバプテスト

—近代化とは何か アングリカニズムとピューリタン

3、海外亡命バプテストと革命前夜の帰国

—バプテストの二つの潮流 市民革命への移行

ジェネラルバプテストとパティキュラーバプテスト

4、Believer's churchの発見と信仰者バプテストマの実践

—immersionの実現と実際 (バプテスト礼典論) Take me to the water

5、バプテスト教会契約の意義と実践 a covenanted people

—信仰者契約共同体の形成と献児式

6、バプテストの新生論 regeneration

—宗教改革者カルヴァンの再生論とバプテスト新生論

7、18世紀啓蒙期のバプテストと信仰覚醒運動

—メソジスト運動とバプテストSpirituality

8、ニューコネクションの登場と超カルヴァン主義的バプテスト

—サミュエル・ディーコンとダニエル・テラー ギリズム

9、アンドリュー・フラワーの神学

—フラワーとフラワーイズム (ギリズムの克服)

10、BMSの設立とW. ケアリーの東インド宣教

—その経緯と状況

11、アンティミッションパーティーとの闘い

—紅茶トレーダー、T・トワイニングとのフラワーの寛容論争

12、英国バプテスト同盟の形成

—19世紀、主流派の合同論 ジョン・クリフォードの合同思想

13、非主流派、ストリクトバプテストの系譜

—両者の共通点と相違点 ウィリアム・ガズビーからスポルジョンまで

14、ドイツのバプテスト派とヨーロッパ各国のバプテスト教会

—オンケンとドイツバプテスト・ゲマインデの発展

世界のバプテスト教会概観

後 期

1、ニューイングランドのバプテスト

—カトリック大陸からプロテスタント大陸へ

独立前の状況とマサチューセッツ湾植民地

2、ロジャー・ウィリアムズと政教分離思想

—ウィリアムズの思想の原点とロードアイランド植民地建設

ヘルウィスからマートン、ウィリアムズへ 「良心の自由論」の系譜

3、アメリカ合衆国憲法修正第一条獲得への道

—全州における公定教会制度の撤廃 バプテスト・スタンダード形成

4、地方連合の形成と信仰復興運動によるバプテストの躍進

—多彩なバプテスト諸派の誕生 レギュラーバプテスト他

5、バプテストと奴隷問題、英国における奴隷廃止運動の経緯

—18世紀奴隷撤廃運動とバプテスト アメリカ南北バプテストの対立

6、南部アメリカ連合国の独立とその奴隷制度維持論

—南北戦争の背景と推移

7、南北戦争後の南北協力とその現実

—解放奴隷によるNational Baptist Convention, USAの創設

(宿題、DVD「それでも夜は明ける」Twelve Years a Slave 鑑賞)

8、バプテストの黒人差別撤廃運動

—バプテスト高等教育機関 ロードアイランド・カレッジ

9、リバイバリズムの概観

—第一次信仰復興運動から、第三次信仰復興運動まで 思想と特色、その影響

10、社会的福音運動 W・ラウシェンブッシュとその人と思想

—マリNZからキング牧師の公民権運動へ

11、日本における社会的福音運動の展開

—その歴史と挫折、国家権力と日本のバプテスト

12、アメリカの根本主義とその展開

—リベラリズムとの対立 ファンダメンタリズムとは何か

13、日本へのバプテスト伝道

—英米からの布教とその発展 東西組合と合同運動

14、日本バプテスト教団から日本基督教団第四部への合同

—大合同論の論理 修正バプテスト主義の理想とその問題点

15、日本バプテスト同盟設立と教団新生会の分裂

—何故、友井は日本基督教団に残留したか 友井の理想

【評価方法】【評価方法】

前期は、レポート提出を課す。後期は学期末試験（選択肢、記述形試験予定）により、総合評価する。出席点は取らない。

【テキスト】

出村彰監修『見えてくる—バプテストの歴史』2011年刊行 関東学院大学出版会。

【参考書】

講義の中でその都度必要に応じて指示、紹介する。

【備考】

講義の中でその都度必要に応じて指示、紹介する。

科目名	担当者名	単位数	時間	3・B・聴
ヘブライ語聖書学 III	渡邊さゆり	4	木・4	

【講義概要】

本講義において学生がより深くヘブライ語聖書を読み、現代を生きる人間、そしてキリスト教共同体のあり方についての問いを抱くことができると考えています。「宣教」「キリスト教会」「聖書」、「召命」…牧者として働こうとする自己への問いを深化し、具体的な聖書の読みと共同体形成にむけた学びになることを期待しています。またイエスの宣教の動機と評価はヘブライ語聖書の思想、歴史認識とどのように接続しているのか、という問をもちながら学んでゆきます。

前期はまず、新しい視座に立ち、聖書を読み直すことを学びます。その後、ゴスマン著『フェミニズムとキリスト教』からはじめ、前期の後半には、トリプル『神と人間性の修辞学』を読みたいと考えています。また進めてゆく中で、いくつかのヘブライ語聖書テキストから、フェミニスト視座による聖書解釈を行う予定です。後期のはじめにブルッゲマンの著作を扱います。預言者的生について考える時となることを望みます。

【講義計画】

(前期) W. ブルッゲマンの安易な著作にあたり、ヘブライ語聖書からいくつかのテーマを取り上げて講義を進めます。「預言」をテーマに、発表と話し合いの時間を作っていきたいと思います。

1. オリエンテーション 聖書を新しい視座から読む 『新しい聖書の学び』1章
2. 『新しい聖書の学び』2章、3章
3. 『新しい聖書の学び』4章
4. 『新しい聖書の学び』5章、6章
5. 『新しい聖書の学び』7章、8章 (以上、テキスト1)
6. 創世記2-3に関する解釈「彼にあうもの」(渡邊)
7. 創世記2-3に関する解釈「エバ」(渡邊)
8. 序「フェミニスト神学」という概念について 1章神学—フェミニズム—フェミニスト神学
9. 2章フェミニズムによる宗教史的・心理学的挑戦
9. 3章非父権的聖書神学への道
10. 7章フェミニスト神学の目標と努力 (8-10、テキスト2)
11. 2章 一つの隠喩の旅
12. 4章 つまづいたラヴ・ストーリー
13. 5章 取り戻された愛の叙情詩
14. 6章 人間喜劇 (11-14、テキスト3)

(後期) 後期の前半を引き続き、トリプルの聖書解釈から学び、後半は、ブルッゲマンの著作を取り上げます。適宜、聖書箇所についての解釈を講じます。

15. ハガル
16. 女奴隷ハガルとパンと水 そしてもうひとりの子(渡邊)
17. タマル—王族による知恵の強姦
18. 頭に手を置くということ 職制にみる現代のキリスト教における性差別(渡邊)
19. 名もないある女—暴力の狂態
20. エフタの娘—むごいけにえ (15, 17, 19, 20はテキスト4)
21. おしゃべりな父親(渡邊)
22. サムソン物語から読む女たちの知恵(渡邊)
- 23, 24, 25, 26, 27 『預言者の想像力 現実を突き破る嘆きと希望』より (テキスト5)
28. おんなたちの哀歌 ミリアムそしてマリアへ(渡邊)

【評価方法】

発表40%（レジュメ、発表、コメント、サマリー）、各学期のレポート60%

【テキスト】テキストは、まず1, 5を購入し、その他は指示があつてから各自で入手ください。

1. 山口里子『新しい聖書の学び』新教出版社 2009年
2. E.ゴスマン 岡野治子 他訳『フェミニズムとキリスト教』勁草書房 1984年
3. P.トリブル 河野信子 訳『神と人間性の修辞学』ヨルダン社 1989年
4. P.トリブル 河野信子 訳『旧約聖書の悲しみの女性たち』日本基督教団出版局 1994年
5. W. ブルッゲマン 鎌野直人訳『預言者の想像力—現実を突き破る嘆きと希望』日本キリスト教団出版局 2014年

【参考書】

講義中に紹介する予定です。

【備考】

科目名	担当者名	単位数	時間	3・B
牧会学	益 巖	4	水・1	
<p>【講義概要・計画】 教会共同体によって委託されている「牧師」の職務内容を共に学んでいく。前期はウィリアム・ウィリモン著の「牧師」（越川裕英、坂本清音訳）を読み進めながら、牧会の働きの内容を考察する。後期は、牧会の働きの内容を教会が置かれている現場の具体的な事例を取り上げて考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教会と地域社会 ・宣教の課題としての事業 ・冠婚葬祭 ・訪問による牧会 等 				
<p>【評価方法】 出席状況、授業の課題への取り組みによって評価する。</p>				
<p>【テキスト】 ウィリアム・ウィリモン著、越川裕英、坂本清音訳『牧師』新教出版社 2007年</p>				
<p>【参考書】 D・ボンヘッファー著 森野善右衛門訳『教会の本質』新教出版社 1989年 第一版第3刷 E・H・ピーターソン著 越川弘英訳 『牧会者の神学』 日本基督教団出版局 1997年 ケネス・リーチ著 石井智子訳 竹田眞監訳 『牧者の努めとスピリチュアリティ』 聖公会出版 2004年</p>				
<p>【備考】</p>				

科目名	担当者名	単位数	時間	神学専門課程
実践神学Ⅱ(宣教学)	益 巖	4	水・3	
<p>【講義概要・計画】 教会の宣教課題を考察する。そのためには、教会が「宣教」する内容をまず検証する必要がある。そのためにイエスが宣教した福音の内容を確認していく。その上で、イエスの福音を宣教する今日的な課題を討議などを通して考えていく。今日的な課題が取り上げられている試みなどを映像、書物などを参考にしていく。また、実際に今日的な課題に取り組んでいる現場を訪れること等を行っていきたい。</p>				
<p>【評価方法】 出席状況、授業の課題への取り組みによって評価する。</p>				
<p>【参考書】 フィリップ・ヤンシー著、山下章子訳 『だれも書かなかったイエス』 いのちのことば社 2000年3刷 ジャン・バニエ著、伊従信子訳 『共同体一ゆるしと祭りの場』 女子パウロ会 1983年 益 巖 著『いのちといのちとの出会い』 新教新書229 新教出版社 1988年</p>				
<p>【備考】</p>				

科目名	担当者名	単位数	時間	神学専門課程
牧会カウンセリング	山田和人	2	水・2（前期）	
【講義概要】				
<p>牧会カウンセリングの基本は、主として対象者に適切な援助を提供することにある。適切な援助を提供するためには、対象者との間に協力関係を構築する必要がある。協力関係を構築するには、両者の間に信頼、尊重を基礎とした協力関係構築のプロセスを積み重ねていく努力が要求される。このプロセスについて学習するには、本来ならばSPE(Supervised Pastoral Education)という臨床での実習とスーパーヴィジョンに基づくトレーニングの経験が不可欠であるが、日本の神学教育の中ではそのための教育システムが十分に整備されていない実情がある。</p> <p>そのような現状を踏まえた上で、この講座の中では、いわゆるカウンセリング諸説の概論を講義するのではなく、学習者個人の気づき(self-awareness)を用いた学びを展開していきたい。上記で指摘した「協力関係構築のプロセス」を進めていくものは、「会話」である。会話とは、「率直な意見の交換」(ハーレーン・アンダーソン)を意味する。ただ、私たちの日常の会話において、そのようなスタイルの会話は自明なこととは言えず、また、自分の語ったことをいちいち振り返るということは、よほど意識的でない限り稀なことである。クラスでは、発表やグループワークの機会を利用して、私たちの会話とそこで語られたことを意識的に振り返るという作業を行い、会話のプロセスで何が起きているのかということと各自が理解できるようになることを目標として設定したい。また、牧会者の役割について各自が自分のイメージやスタイルについて考える機会となるよう、限られた時間を有効に使っていきたい。</p>				
【講義計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 牧会(Pastoral Care)ということの理解をめぐって ～牧会者の役割を中心に考察する～ 2) 自己理解を深める ～関係性の中で生きること～ (各自のライフ・ヒストリーの発表を含む) 3) Theological reflection 1 ～経験から学ぶ～ 4) Theological reflection 2 ～会話記録の作成～ 5) ロール・プレイ ～実際の会話とそのプロセス理解～ 6) 病床訪問について 				
【評価方法】				
クラス出席：50%、発表：25%、レポート：25%（計100%）に基づいて評価を行う。				
【テキスト】				
特に指定しない。				
【参考書】				
クラスの中で指示する。				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴
説教演習	小野慈美	4	木・4	説教を履修済みの者
【講義概要】				
<p>「説教とは、今ここで語られる神の言葉である」という言葉の意味を確認する。</p> <p>テキストの選択から説教に至るまでの実際のプロセスをたどりながら、説教の作成を試みる。</p> <p>説教は、本来、語られ、聞かれるべきものであるので、実際的な訓練をできるだけ取り入れる。</p> <p>また、結婚式、葬儀など様々な場面の説教作成をし、最後に、礼拝・牧会との関連で説教を考える。</p>				
【講義計画】				
<p>前期： 説教とは何か</p> <p>コミュニケーションとしての説教</p> <p>説教の作成のための諸要素について</p> <p>積義の実際</p> <p>説教原稿の作成</p> <p>説教の演習</p> <p>説教の分析</p> <p>後期： 結婚式、葬儀の説教</p> <p>さまざまな場面での説教</p> <p>クリスマスの説教</p> <p>イースターの説教</p> <p>礼拝と説教</p> <p>説教と牧会</p> <p>説教者の自己理解</p>				
【評価方法】				
<p>出席状況、積義レポート、説教原稿、説教演習を総合して評価する。</p> <p>※学期末・年度末のレポートはない。試験は実施しない。</p>				
【テキスト】				
特に定めない。				
【参考書】				
<p>F.B.クラドック 平野克己 訳『権威なき者のごとく』－会衆と共に歩む説教 教文館 2002年</p> <p>R.リチャー 平野克己・宇野元 訳『説教の神学』－キリストのいのちを伝える 教文館 2004年</p> <p>W.H.ウィリモン 越川弘英・岩見育子 訳『礼拝論入門』新教出版社 1998年（5・7章が説教論）</p> <p>W.H.ウィリモン 越川弘英・坂本清音 訳『牧師』新教出版社 2007年 （5章「聖書解釈者としての牧師」 6章「説教者としての牧師」）</p> <p>W.H.ウィリモン 上田好春 訳『異質な言葉の世界』－洗礼を受けた人にとっての説教 日本キリスト教団出版局 2014年</p> <p>フィー、スチュワート 和光信一 訳『聖書を正しく読むために[総論]』いのちのことば社 2014年</p> <p>浅野淳博 他 『新約聖書解釈の手引き』 日本キリスト教団出版局 2016年</p>				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴
新約ギリシャ語	帆苺 猛	4	火・4	
【講義概要】				
<p>一年間でギリシャ語文法の基本的な部分をしっかり習得したい。そのためには、授業でしっかり学ぶことはもちろんであるが、自宅等での自習が欠かせない。とくに最初が大切で、慣れるまで、毎日一時間程度の学びをつづけることが大切である。語学の学習には声に出して発声しながら練習することも有効な方法である。</p> <p>講義は下記テキストに沿って進めるが、予習・復習を欠かさないことが肝要である。</p> <p>授業の中で、基本的に毎回課題を出し、それを次週の小テストで確認するので、きちんとなしてほしい。</p>				
【講義計画】				
<p>前期：まずアルファベットと発音についての学びから始めて、冠詞、動詞変化（現在直説法能動態）、名詞変化、形容詞変化についての学びを進める。最初のうちは、とくにゆっくり、丁寧に進めたいと考えている。初めの時にしっかりと予習・復習をすることが肝心である。引き続いて、動詞の現在直説法中動態・受動態、形容詞・副詞の比較、代名詞、数詞、前置詞まで学んで前期を終えたい。</p> <p>夏休み中に、学んだことを忘れてしまう恐れがあるので、夏休みの課題を出したいと考えている。</p> <p>後期：まず、前期に学んだことをざっと振り返りながら、最初に動詞全体の変化について学びたい。その後、未完了、アオリスト、完了のそれぞれの時制の動詞の変化と意味合いを学びたい。さらに引き続いて、分詞、不定法に触れ、命令法、希求法、接続法の新約聖書の用例について学びたい。最後に、条件文、否定詞の用例等について学びたい。もし時間が許せば、補説の部分にも触れて、本文で学べなかったところを補いたい。</p>				
【評価方法】				
<p>期末テストおよび普段の授業・課題への取り組み状況、および小テストによって評価する。</p>				
【テキスト】				
<p>土岐健治『新約聖書ギリシア語初歩』教文館</p>				
【参考書】				
<p>その都度授業の中で紹介する。</p>				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	神学専門課程
基礎文献講読	渡邊さゆり	4	金・2	
【講義概要】				
<p>この講義では、神学研究の継続のために必要な読解力を養います。受講者の読解力に合わせて、神学の各領域から、基本的な和書、英書を取り上げ、講読します。リーディングレポートの作成、神学論文の執筆、発題、学習会の運営に必要な基本的な技術を身につけることも目的にしています。また論文執筆に必要な初歩的技術の習得を目指します。</p> <p>より多くの神学書の文意をすばやく読み取り、和書、英書問わずに、各分野の文献にあたることができるようになるのが、本講義の目的です。さらに自分でテーマを取り上げ、文献検索と、資料の整理、それらを解説する力を養いたいと思います。後期は、各受講者が各々のテーマを掘り下げて考えて、資料を整えて論文を執筆する準備をします。英書の読解ができるよう、受講者の英語力に合わせて、基本的な英語の神学的用語を習得しつつ、また英語で簡単な教会活動や、信徒研修のためのプレゼンテーションができるように指導していく予定です。</p>				
【講義計画】				
<p>前期</p> <p>まず、論文レポートの基本的な記し方について学びます。その上で、平易な日本語で記された書籍にあたり、ブックレポートを作成します。要約、問題提起、コメントをつけるレポートを繰り返し作成し、論考に対する批判、主張の展開を身に付けていきましょう。以下の文献にまず取り組みます。</p> <p>トルストイ 米川正夫訳『民話集 人は何で生きるか』角川文庫 1968年 H.W.ロビンソン 高野進 訳『バプテストの本質』ヨルダン社 1985年 D.ボンヘッファー 森野善右衛門 訳『改訳新版 共に生きる生活』新教出版社 2007年 R.ボウカム 山口希夫 横田法路 訳『イエス入門』新教出版社 2013年 青野太潮 『パウロ 十字架の使徒』岩波新書 2016年</p> <p>後期</p> <p>後期は特に、プレゼンテーションの力を身に付けるため、資料の収集と整理、選別と発表の方法を検討してゆきます。同時に、日本語以外の文献にあたり、ようやくする力を身に付けてゆきたいと思います。</p>				
【評価方法】				
講義中の発題40% 学期ごとのテスト40% 提出物 20%				
【テキスト】 テキストは、3、5、以外は、指示があってから入手するようにしてください。				
<p>1. トルストイ 米川正夫訳『民話集 人は何で生きるか』角川文庫 1968年 2. H.W.ロビンソン 高野進 訳『バプテストの本質』ヨルダン社 1985年 3. D.ボンヘッファー 森野善右衛門 訳『改訳新版 共に生きる生活』新教出版社 2007年 4. R.ボウカム 山口希夫 横田法路 訳『イエス入門』新教出版社 2013年 5. 青野太潮 『パウロ 十字架の使徒』岩波新書 2016年</p> <p>ほか、適宜あげてゆきます。</p>				
【参考書】				
受講者の状況にあわせて、講義で紹介します。				
【備考】				
学生は毎回の講義のために十分準備し、定められた図書を購入、よく読んで講義に臨んでほしいと思います。				

科目名	担当者名	単位数	時間	1・2・3・S・B・聴
原書講読（英語）	ニニミン／渡邊さゆり	4	木・3	
【講義概要】				
<p>英書を読むための基本的な語学力を身に着けるため、まずは英文法のおさらいをします。その上で神学的議論に用いられる用語を習得し、聖書、また英書を読み、多様な文献にあたり研究を進めることができるようにすることが目的です。このプロセスの中で、他言語理解に必要な、受容性や、新しい考え方に心がひらかれてゆくように、ことばが、単なる道具ではなく、コミュニケーションの大切さを一緒にまなんでゆくことができればと考えています。</p>				
【講義計画】				
<p>前期は、主に英文法を習得し、簡単な英書であれば、辞書なしで読むことができるように、英訳聖書にもあたり、力をつけてゆきます。とくに聖書釈義の準備をしてゆきたいと思います。</p> <p>後期は、ミャンマーにおけるキリスト教宣教をニニミン師に取り上げていただき、アジアにおけるキリスト教について考えながら進めてゆきましょう。講師が準備した英語文献をしっかりと事前学習をして講義に臨み、質問やコメントを交わしながら、英書を読むことができるようにしたいと思います。</p> <p>各自が、配布された印刷物を管理し、課題に取り組んでゆくことで、講義内容がより深まってゆきます。</p>				
【評価方法】				
半期ごとのレポート40、各講義ごとの課題、取り組み30、テスト30				
【テキスト】				
適宜紹介する。また印刷物で行うこともある。				
【参考書】				
【備考】				

<<沿革>>

日本バプテスト神学校は、日本バプテスト同盟の伝道者養成のために建てられている学校である。

1972年、日本バプテスト同盟は、それまで伝道者養成の働きを委託してきた関東学院大学神学部の廃止により、伝道者養成の働きを全く独自な形で推進することを決定し、「宣教研修所」を設立した。「宣教研修所」では、他の神学校・神学部で学んでいる学生と連絡を取りながら、バプテストとしての学びを集中的に行った。1982年より、関東学院大学の旧神学館を教室として借り、本格的に伝道者養成の働きを開始した。近隣の牧師、関東学院大学、また関東学院女子短期大学の教師が協力し、伝道者養成の業が継続された。そして、宣教研修所設立24年目の1996年度に、宣教研修所の伝道者養成部門を「日本バプテスト神学校」と名称変更し新しい歩みを開始。以降は、養成部門を「日本バプテスト神学校」とし、研究・研修部門は「宣教研修所」として働きをなした。1997年「日本バプテスト神学校」の校舎・宿舎の建設が完成し、日本バプテスト同盟の伝道者養成に新しい息吹を与えた。

宣教研修所及び日本バプテスト神学校の教師コースの卒業生は105名になり、各方面で活躍している。また、信徒コース修了者は、34名でそれぞれの教会、伝道所で活躍している。

<<学生心得>>

学生は、すべての事柄の第一に祈りをおきましょう。個人的な事情や様々な困難の中にあっても、学びをおろそかにせず、神学研究に参加することを特別に与えられた神の恵みと受け止め、真摯に学びましょう。伝道者として召された自覚を確認し、全国の教会・伝道所の祈りと貴い献げもの、奉仕によって運営される当校で学ぶことを感謝し、神学研究を通して教会に奉仕するものと造りかえられていきましょう。学業中に起こる様々な問題や葛藤を、神学校教師、教会教師、そして共に学ぶ仲間と共に分かち合い、祈り乗り越え、神の計画に基づく献身の道を進んでいきましょう。

神学校では、共同生活を行っています。他の学生の学びの妨げになるような態度を慎み、良識をもって生活することを心がけてください。

<<学期と評価 講義日程中の注意>>

前期は4月 1日より7月31日

後期は9月 1日より1月31日

授業への出席が全体の各学期の3分の2に満たない者は、単位取得を認められない。遅刻しないこと。遅刻、怠学は、神への誠実を欠く行為である。自己管理につとめ、事故防止、回避を心がけ、授業出席を大切にすること。やむを得ない事情が生じた場合は連絡をすること。休講、時間割変更などについての連絡を受け取った場合には連絡受領を知らせること。

各科目の合格点 40点 以上

成績評価の方法は、各担当者が定めている。単位認定は校長の責任において行っている。出席態度、講義日程期間中の遅刻、早退、欠席の過多、また途中退室の多い学生については、単位認定査定に左右することを留意すること。

授業を欠席する場合は、事前に担当教員と教務主任に事前に連絡をする。緊急の場合は、教務主任に即連絡をする。

教会実習（通年、集中）を欠席しないこと。やむを得ない事情が生じた場合は実習先の教会教師と教務主任に必ず事前に連絡をすること（メールではなく、電話連絡原則）。

講義への出席は登録をし、学生として入学を許可され、また講義への出席を許可された学生のみである。見学、途中聴講などは、その都度、所属教会の代表役員の推薦と承諾をもって書面で申し出、校長の許可が事前に必要である。他の学生、また講義担当者による指導の妨げとなる行為が発覚した場合は、それにかかわる学生も、その講義を受講できなくなるので十分注意すること。

<<図書利用について>>

本校図書を利用できるのは、在学生、教員、職員、および、本校校長が認めた者である。

図書は、参考図書（辞典類）、注解書、禁帯出図書以外を借りることができ、貸出を希望する場合には事務所にある図書貸し出しノートに必要事項を記入の上、貸し出しを受ける。返却の場合も同様に手続きをする。図書は共用財産である。勝手に持ち出し、返却を遅延させてはならない。図書の貸し出しは、一人一回5冊以内2週間とする。図書の貸し出しは、講義日程期間 午前9時から午後5時まで。休暇中の開架については別に定める。図書室の利用については午前9時から午後9時までとする。

<<施設利用について>>

校舎の整理整頓、清掃に努める。全学生が、校内清掃時間には協力して清掃する。

節電はもちろんのこと、水光熱費の削減に協力し、防火意識を高くもつこと。

自家用車で登校は原則禁止。身体的な事情や、やむを得ず車で登校する場合はあらかじめ教務主任に連絡し、許可をとること。継続的に自家用車で登校する学生は近隣の駐車場に契約すること。なお、自家用車で登校によって通学中に事故に遭遇しても登校での保険対象にはならない。原則自家用車登校は禁止であることを留意すること。寮生の駐輪については寮生活の項を参照すること。

避難、通報訓練に参加し、建物の維持管理に積極的に参与すること。

コピー機の使用は、白黒1枚10円。カラー1枚30円。事務室で利用料を支払うこと。ミスプリントも換算する。

戸塚伝道所との協力を理解し、水曜日の夜、日曜日に行われる集会に支障のないよう、事前の清掃に全員で努める。

共有施設である自覚をもって感謝して利用する。

<<課程と在学期間>>

当校には下記の課程とコースがある。

I 基礎課程

1. 信徒伝道者コース（原則1年もしくは科目履修による複数年）

- (1) バプテスマを受領し、教会生活をしている者
- (2) 所属教会の推薦を受けている者

2. 教師養成コース（2年）

- (1) バプテスマ受領後一年以上教会生活をしている者
- (2) 伝道者としての召命を明確に自覚し、将来、同盟加盟教会その他で、伝道者として働くことを希望する者
- (3) 所属教会の推薦を受けている者
- (4) 高等学校卒業以上の学力を有する者

II 神学専門課程

1. 教師養成コース（原則3年）

- (1) 基礎課程を修了している者

(2) 高専、短大、大学卒業以上の学力を有している者（要問合せ）、基礎課程教師養成コース入学資格の(1)から(3)を有する者

2. バプテストコース（原則1年）

(1) 他の神学校、または大学神学部を卒業した者で、基礎課程教師養成コース入学資格の(1)から(3)を有する者（他の神学校については確認を要す）

授業料

入学金 2万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は3万円）

維持管理費 年間 3万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は6万円）

授業料 年間12万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は18万円）

入学金、維持管理費、授業料を4月末日までに納入すること。納入された諸費は、いかなる事情においても返還しない。

（科目履修・聴講）

前年度指定された期日までに、所属教会の推薦を得て所定の願書を提出した者は、開講される講義のうち、信徒コースの科目（フィールドワークを除く）を履修、聴講することができる。科目は以下の通りである。

神学概論

キリスト教史

ヘブライ語聖書学Ⅰ

新約聖書学Ⅰ

実践神学Ⅰ

また、上記のすべての科目の単位を取得した者は、新約釈義、旧約釈義、バプテスト史、基礎文献講読、キリスト教と現代他、定められた科目履修することができる。

科目履修・聴講は、一科目 年間 2万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は3万円）

初年度に入学金 2万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は3万円）

維持管理費 3万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は6万円） を納

入すること。

初めて科目履修・聴講する場合は、入学式、オリエンテーションに出席すること。

科目履修生は、講義で指定されたレポート、試験を受け合格した場合は単位が認定され、後に入学を希望した場合にこれらの単位は換算される。

聴講生は、単位取得のために学ぶ学生たちの研究活動に支障をきたさぬよう授業へ参加をするものとする。

科目履修・聴講生の場合も、他の学生と同じく施設利用の注意を守り、神学校管理運営に協力し学びを進めていただきたい。

<<奨学金>>

神学専門課程の学生には、「日本バプテスト同盟伝道者養成奨学金制度」が適用される。

給付奨学金

伝道者養成奨学金制度規程に従い、神学専門課程の学生が毎年度申請し、年額28万円の給付を受ける。ただし、卒業後日本バプテスト同盟加盟の教会、伝道所、協力団体に伝道者として就任しない者、また就任後三年以内に伝道者としての職を辞任した者は、給付を受けた奨学金の全額を返還しなければならない。

特別奨学金

日本バプテスト同盟の教師コースの学生には、日本バプテスト同盟の医療費を援助する特別奨学金の制度がある。神学生及びその家族が不慮の疾病・事故等により、就学に支障をきたすと認められる場合、伝道者養成部委員会の判断において特別奨学金を給付することができる。特別奨学金の額及び期間は、伝道者養成部委員会の議決により決定する。

貸付奨学金

貸付金は月額5万円で、年間60万円、貸付期間は3年以内。希望者は連帯保証人と連名で申請をし、貸付金の決定を受ける。返済は、卒業後6ヶ月を経過後、毎月2万円を完済するまで返済する。無利息。

<<学生寮>>

入寮について

当校で学びを希望する者は、学生寮に入寮することができる。

入寮を希望し、認められた者は入寮することができる。寮生活の注意事項を守り、寮生活を送ること。なお、2015年度も引き続き教務主任が、学生寮の舎監を兼務する。

荷物は各自の部屋に収納できる物のみとする。共有スペースなどに私物を大量におかない。寮の部屋には、ベッド、本棚、クローゼット、机、がある。布団は各自持参のこと。また、食堂には調理器具と冷蔵庫、電子レンジ、トースター、電気ポットがある。共有スペースには風呂、トイレ、洗面所、洗濯機がある。

寮費納入

月額2万円。滞納しないように前月末までに神学校へ払込票を用いて納入すること。あるいは、年間24万円をまとめて支払うようにする。

寮生として生活はしないが、講義日程期間中に荷物を特定の部屋に置き、定期的に宿泊予定のある学生は舎監に申し出て講義日程期間（前期4～7月 後期9月～1月）九ヶ月分 年額8万円を納入することとする。なお休暇中は荷物を撤去しなければならない。また部屋の利用期間中も鍵を持つことはできない。

入寮希望者は定められた期日までに入寮願いを保証人（所属教会 代表役員）自署付きで提出し、校長の許可を得る。

その他、寮の利用に関しては、入寮願いに記載されている通りである。

生活時間 以下の部屋の使用を原則として次の時間までとする。

図書室 9：00～21：00まで（貸出返却は、講義実施日の午前9時～午後5時まで）
礼拝堂 20：00まで／集会室 24：00まで

鍵について 鍵の管理は各自で行うこと。万一紛失したときは、遅延することなく即、舎監に連絡するように。また、鍵の取り換え等にかかる費用は自己負担となる。

部屋替え 使用する部屋は年度ごとに替える。部屋替えは、年度末に行い、在寮期間中に同じ部屋を使わない。基礎課程からの入学者はその限りではない。部屋替え時に、それまで使用した部屋を徹底的に清掃するように。

退寮 退寮する場合は、一ヶ月前には舎監に申し出ること。寮費の精算を行い、各自荷物の搬出をして清掃し、不用品などを残さないようにする。鍵の返却をもって退寮とする。他の寮生との共同生活が損なわれ

るような行為が続く者については退寮を願う。

電話 電話連絡手段（固定電話契約、携帯など）は各自が用意すること。神学校事務所では個人への電話の取次ぎをしない。連絡先番号を、神学校事務所にしないように。また、各自の連絡先は、舎監に伝え、変更がある際はすみやかに届け出るように。

車 両 オートバイ、原付、自転車などを各自で用意し、利用することができる。各自いずれか一台とするように。なお、自動車は認めない。

動物の飼育 寮室、共有スペース内でのペットの飼育はできない。

暖 房 各部屋設置のエアコンを使用するように。石油ストーブ、電気ストーブ等は、使用してはいけない。

節 電 最大限の節電マナーを心がける。エアコンの消し忘れに注意し消灯確認をして部屋を出るように。

戸締り 出入りに際しては、各自戸締りをする。窓、ドアの施錠を必ずするように。

清 掃 各自の部屋の清掃はもちろん、風呂、トイレ、食堂の清掃をすすんでおこなうように。また一斉清掃に必ず参加するように。

ゴミ出し 食堂のゴミは、寮会で定めた当番が責任をもって朝8時までに所定の収集場所まで出す。それ以外のゴミは各自で処理する。可燃ごみ 月、金 プラスティックごみ 木 資源ごみ 土 大型のごみについては戸塚区の決まりに従って廃棄処分すること。

冷蔵庫 2階食堂の冷蔵庫は共有。中の整理、清潔に心がけ、長期放置のないように。

寮生以外の宿泊 寮生が自室に寮生以外を宿泊させることはできない。家族、友人などの来訪があり、宿泊を希望する場合は、ゲストルームを有料で使用する必要があるが、事前に校長の許可が必要である。講義日程中は、日本バプテスト同盟の公的ゲスト以外の寮の利用を原則お断りしている。

避難訓練 法定で定められている避難訓練を神学校が実施する際、必ず参加し、災害時避難の方法を確認し、日ごろから防災意識を高くもつ。

荷物の受け取り 前もって到着がわかっている小包、宅急便等の荷物は出来るだけ各自が受け取るように。

郵便物 住所は下記にある通り。「日本バプテスト神学校 内 ○○○○ 宛」とし、舎監が郵便物を学生のレターケースに配る。

寮の住所

〒245-0061 神奈川県横浜市戸塚区汲沢1-24-9

日本バプテスト神学校 内

電話 045-866-3150（個人の連絡先にすることはできません）